

暮らしの先行き

報告書

(2008年8月11日～21日調査)

I	調査の設計	1
II	結果の概要	3



社団法人 長野県世論調査協会
Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

暮らしの雲行きがにわかには怪しくなってきた。景気の回復・拡大の流れが、地方ではいまひとつ実感されない“くすぶり状態”にあったが、8月の月例経済報告は「景気の後退局面入り」を事実上認め、2002年2月以来の戦後最長の景気拡大に終止符が打たれた。

米国発のサブプライム住宅ローンの破綻に加えて、原油、穀物などの原材料価格の高騰という外的ショックで、日本経済は輸出依存と内需低迷の足腰の弱さを痛撃されたかたちだ。目前のガソリン、食料の値上げは家計を圧迫し、生産資材の面では幅広く製品値上げに波及しそうな様相だ。

内閣改造・自民党役員人事を行った福田首相は、衆院解散・総選挙を視野に、減税を組み入れた総合経済対策に打ち出したが「福祉・社会保障」と「景気・雇用」を最大懸念とする人々が暮らしの現状をどのように受けとめ、どのように先行きを感じ、対処しようとしているのか、福田改造内閣の発足（8月2日）後に実施した定例の「県民の政治意識—第27回モニター調査」と併せて県民世論を探る。

◆調査の設計

▽調査方法 当協会の登録モニター500人に事前に調査票を郵送し、回答は郵送、ファクス、電話聞き取り、インターネットを併用して回収。

▽調査時期 2008年8月11日調査票発送～21日回収締め切り

▽有効回収数（率） 481人（回収率96.2%＝男性237人 女性244人）

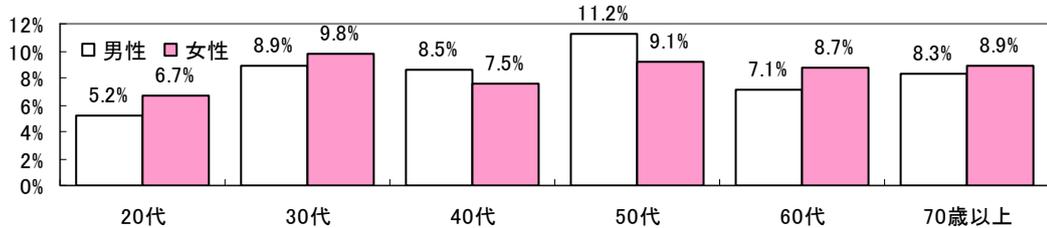
▽回収内訳	郵送	227	(47.2%)
	ファクス	131	(27.2%)
	電話聞き取り	63	(13.1%)
	インターネット	60	(12.5%)

<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

回収サンプルの内訳

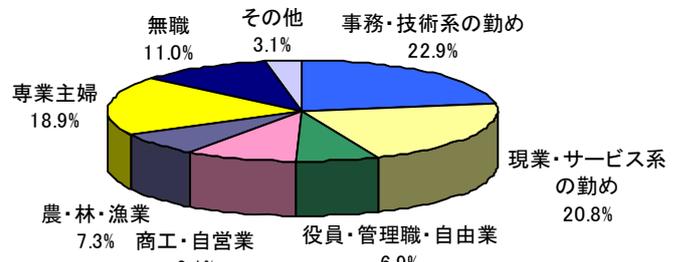
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	481	57	90	77	98	76	83
	100.0%	11.9%	18.7%	16.0%	20.4%	15.8%	17.3%
男性	237	25	43	41	54	34	40
	49.3%	5.2%	8.9%	8.5%	11.2%	7.1%	8.3%
女性	244	32	47	36	44	42	43
	50.7%	6.7%	9.8%	7.5%	9.1%	8.7%	8.9%



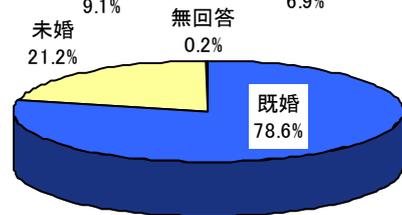
【職業】

事務・技術系の勤め	110	22.9%
現業・サービス系の勤め	100	20.8%
役員・管理職・自由業	33	6.9%
商工・自営業	44	9.1%
農・林・漁業	35	7.3%
専業主婦	91	18.9%
無職	53	11.0%
その他	15	3.1%



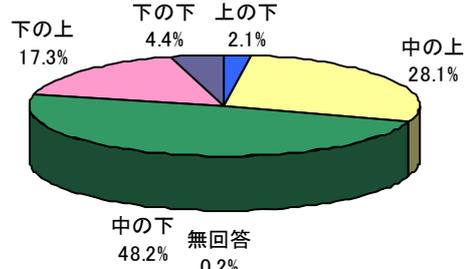
【結婚の有無】

既婚	378	78.6%
未婚	102	21.2%
無回答	1	0.2%



【暮らしぶり】

上の上	-	-
上の下	10	2.1%
中の上	135	28.1%
中の下	232	48.2%
下の上	83	17.3%
下の下	21	4.4%



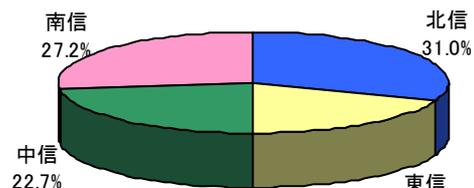
【パソコン・携帯電話でのインターネット】

利用している	278	57.8%
利用していない	202	42.0%
無回答	1	0.2%



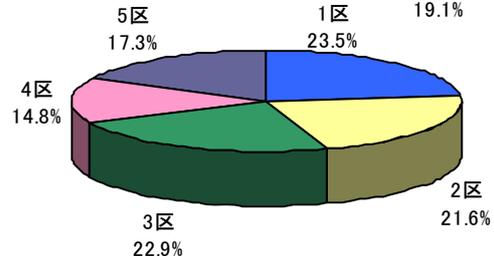
【地域】

北信	149	31.0%
東信	92	19.1%
中信	109	22.7%
南信	131	27.2%



【選挙区】

1区	113	23.5%
2区	104	21.6%
3区	110	22.9%
4区	71	14.8%
5区	83	17.3%



II 結果の概要

景気「後退局面」の中の暮らし

現在の不安

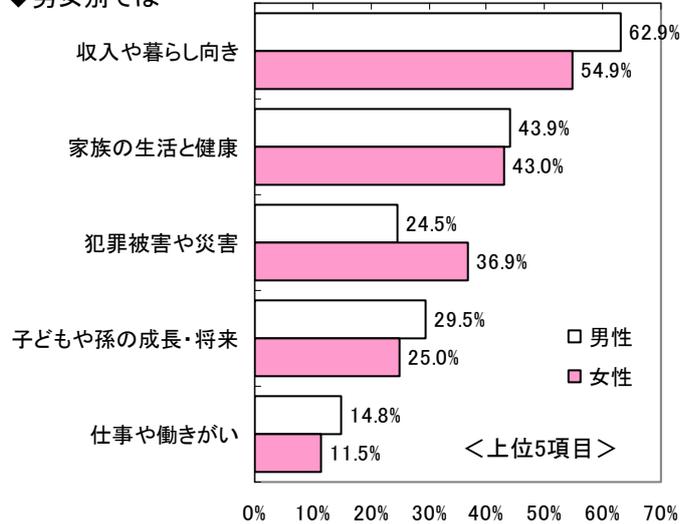
「収入や暮らし向き」トップ 「家族の生活・健康」2番目

「収入や暮らし向き」が60%に迫り、他を引き離しトップ。「家族の生活と健康」が2番目に挙げられ「犯罪被害や災害」「子どもや孫の成長・将来」が上位に続く。

「収入・暮らし」は男性が60%を超え、50代を筆頭に現役世代で高め。「家族」では男女に違いはないが、60代を軸に中高年齢層で高くなる。女性は「犯罪・災害」で10ポイント以上リード。5位の「仕事や働きがい」は20代の高さがめだつ。

暮らしぶりが下がるほどに「収入」の割合がストレートに跳ね上がっていく。

◆男女別では



	標本数	向収入や暮らし	健康家族の生活と	害犯罪被害や災	成子どもや孫の	い仕事や働きが	テロや戦争	変社会や技術の	人地域や近隣の	その他	特にな	なな
全体	481	283	209	148	131	63	39	32	18	5	4	1
		58.8	43.5	30.8	27.2	13.1	8.1	6.7	3.7	1.0	0.8	0.2

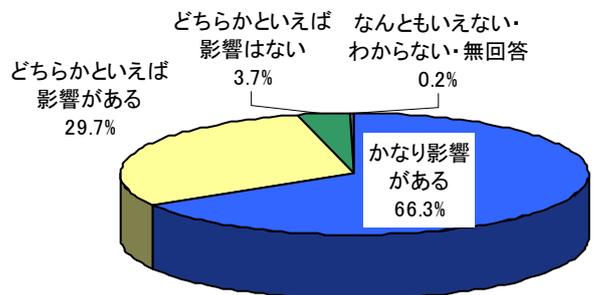
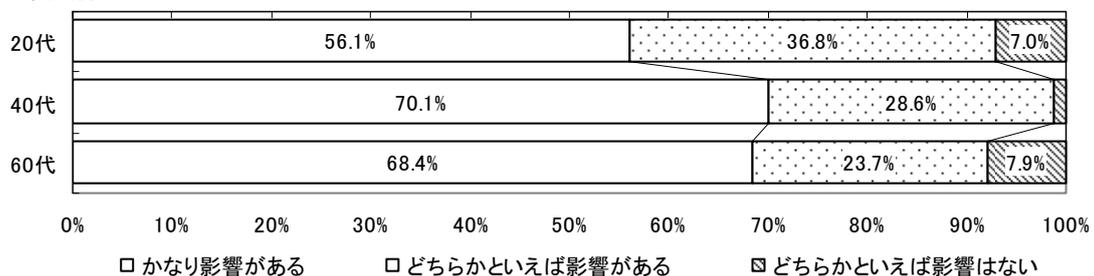
暮らしの現況

◆原油・原材料の高騰「かなり影響」66%

原油・原材料の高騰のしわ寄せを大半が実感する中で「かなり影響」だけでも66%の高率。男性の受けとめがやや厳しく、年代層では20、70歳以上（以下「70代」と略記）で60%を下回るが、30～60代で70%前後に高まる。

また、既婚層70%—未婚層54%の落差がみられ、地域的には中信が74%と最も高いのに対して、東信では60%余にとどまる。

◆年代別では

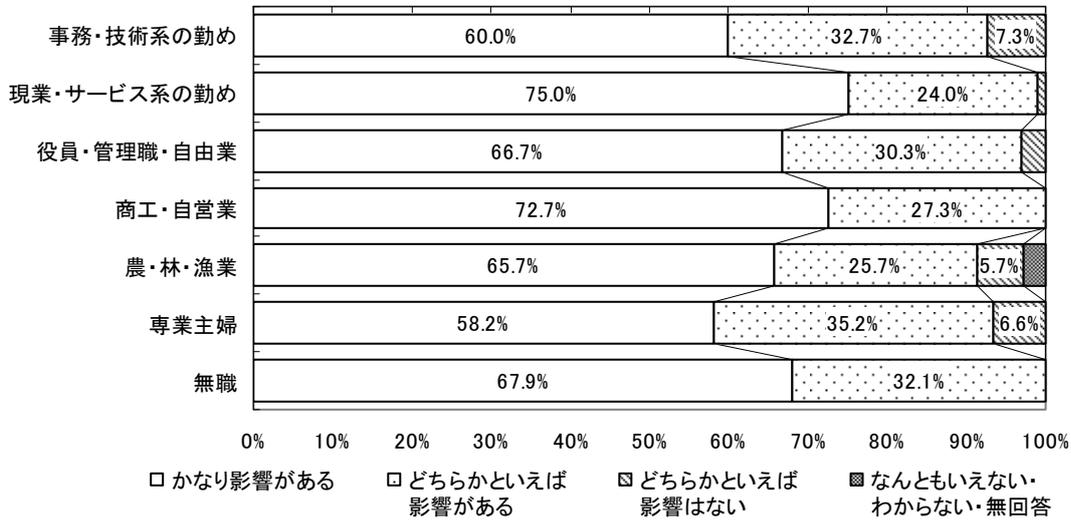


◆職業層

「かなり影響」現業・サービス系勤め人75%—専業主婦58%

「かなり影響」が現業・サービス系勤め人で75%と最も高く、商工・自営業が続く。対照的に、専業主婦では60%に届かず、事務系・技術系勤め人も平均値を下回る。暮らしぶり「中の下」で69%、「下の上・下」では80%前後で深刻な受けとめだ。

◆職業別では



迫られる暮らしの対応

トップ「家計費の節約」 続く「趣味、旅行手控え」

「食費など家計費の節約」が最も多く80%近くに達する。「趣味や旅行を控える」が2番目に挙げられ64%。上位に「住宅、車など大型出費の先送り」「預貯金の取りくずし」の順で続く。

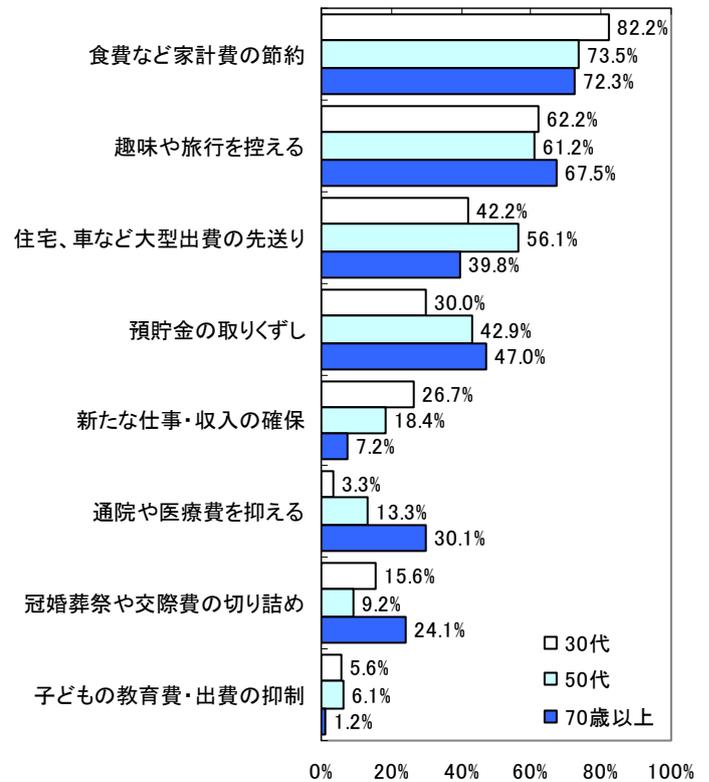
「家計費」は女性で圧倒的に高まり84%。男性では「大型出費」が50%を超える。

◆家計費 若い層“圧迫感”80%台

「家計費」が40代までの年代層で高まり、勤め人層と専業主婦、無職層でめだつ。「趣味・旅行」では40代で4人に3人を占め最も高い。50代は「大型出費」、60代では「預貯金」に特化される。

「通院や医療費を抑える」は全体で6番目だが、60~70代では平均値を大きく上回る。

◆年代別では



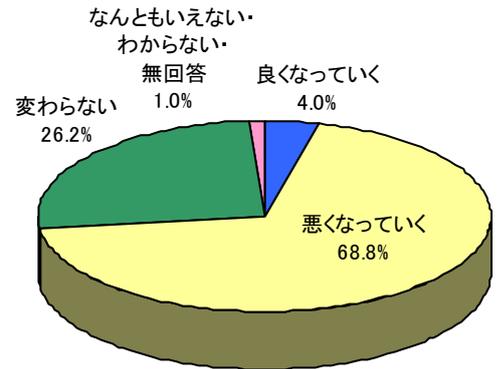
	標本数	食費など家計費の節約	趣味や旅行を控える	大型出費の先送り	住宅、車の先送り	預貯金の取りくずし	収入の確保	通院や医療費を抑える	結婚費の切り詰め	子どもの教育費の抑制	その他	特になし	なんともいえない・無回答
全体	481	374	310	209	191	78	72	67	23	9	5	2	
		77.8	64.4	43.5	39.7	16.2	15.0	13.9	4.8	1.9	1.0	0.4	

れからの暮らし向き

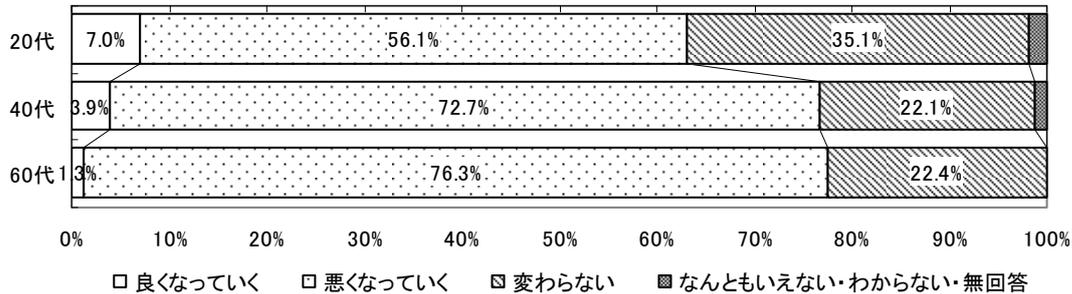
◆「悪くなっていく」70%に迫る 男性や中高年齢層きびしく

「悪くなっていく」が約70%と圧倒的に多く「変わらない」が26%、「良くなっていく」はるわず10%に届かない。男性の通しがシビでは4人に3人を占める。年代層では40代以上で顕的な通しが高まる。

“化”は信で76%の高率の半面、他の地域では10ポイント度下回る。また、既婚層70%—未婚層63%の度差がある。



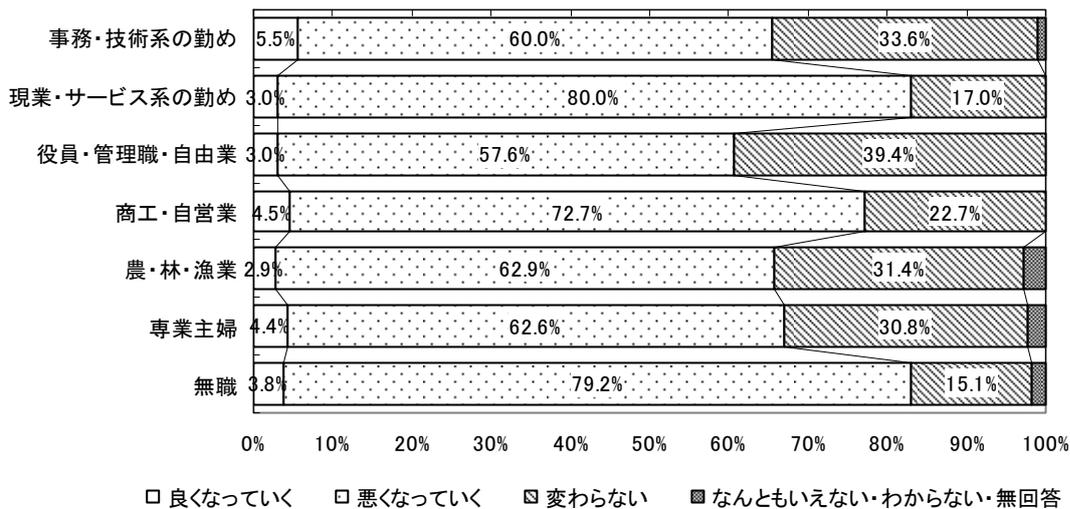
◆年代別では



◆職業層「悪くなる」バラツキ 現業・サービス系80%—役員層58%

「悪くなる」が現業・サービス系勤め人系の80%を最高に無職層が続く。半面、役員・職・自業は60%に届かず最も低くなっており「変わらない」が約40%にのる。事務系・技術系勤め人にしている。暮らしぶりでは「中の上」53%—「中の下」74%の落差がしい。

◆職業別では



「安実現」「国民目の行政」「期待できない」圧倒的受けとめ

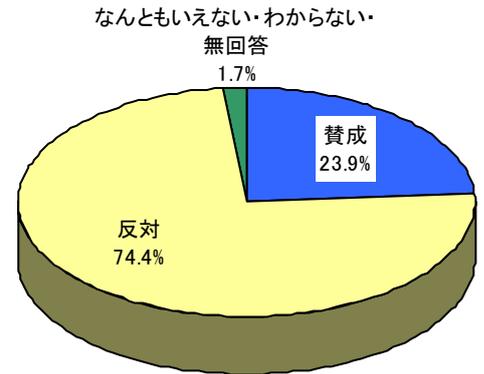
福田改造内閣の一に「期待できる」は10%余にとどまり「期待できない」が87%の高率。とくに、40~50代の年代層の受けとめが厳しくされたが、の退(9月1日)により、福田首相自ら期待感をしつぶすかたちになった。

社会保障の 保に 費税引き上げ

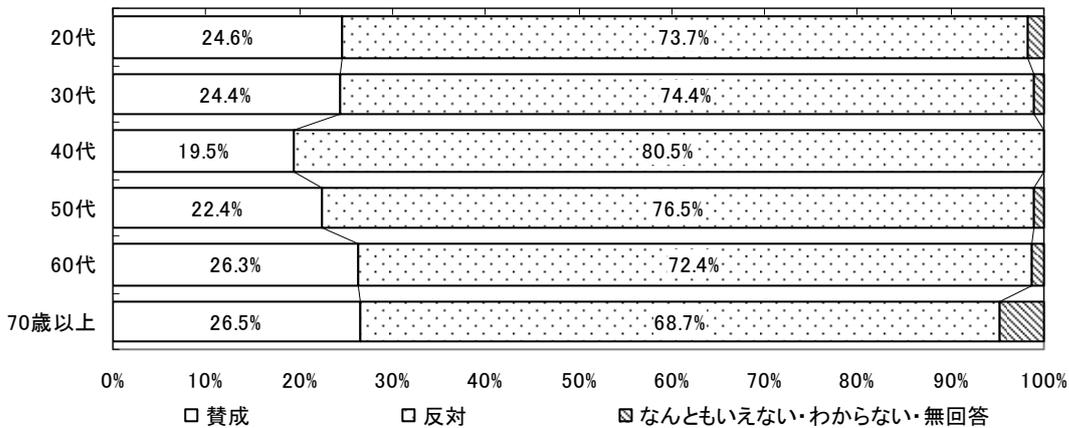
◆「反対」4人に3人 40代で80%の最高

後の総合経済対策と 政のからみで、最大の 点となる 費税の取り いで、社会保障の 保に引き上げ 「成」が24%、「対」が74%と大きく かれた。

男女にほとんど差はみられず、40代の「対」が80%に達して“感”がくし出されているが、70代をく他の年代層の受けとめにめだったきはみられない。職業層では、役員・職・自業で「成」が約40%と最も高い。「対」は・業、現業・サービス系勤め人、無職層で80%前後に高まる。



◆年代別では



◆選挙区に落差 「賛成」2区28%－4区20%

迫る解散・総選挙の争点からみで、選挙 でみると「成」が2 で28%と最高で、4 の20%が最低。政党 層では、自民党で「成」が36%に るのに対して、民主党は「対」が70%を超え、なし層では80%に迫る。

◆選挙区別では

